日田市埋蔵文化財調査報告書第76集

# 上井手遺跡

2007年

日田市教育委員会

# 序　　文

この報告書は、当教育委員会が宅地造成工事に先立ち、平成17年度に発掘調査を実施した上井手遺跡の調査内容をまとめたものです。

上井手遺跡は装飾を持つ古墳で知られる法恩寺山古墳群の南側に位置し、この一帯は古代の日田郡五郷のうちの一つ、靭編郷の中心地であったと推定されています。

調査では中世の溝や土坑などが確認され、当時の集落を考える上で、貴重な成果を得ることができました。

こうした発掘調査の成果をまとめた本書が、今後、文化財の保護や学術研究、地域の歴史を学ぶための教材などとして、ご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘作業に従事いただきました作業員の皆様方や地元をはじめとして調査にご協力いただきました方々に対して、心から厚くお礼申し上げます。

平成19年３月

日田市教育委員会

教育長　**諫　山　康　雄**

# 例　　言

1．本書は、日田市教育委員会が平成17年度に実施した上井手遺跡１次の発掘調査報告書である。
2．調査は宅地造成工事に伴い、田中建設株式会社の委託業務として日田市が受託し、日田市教育委員会が事業主体となり実施した。
3．調査現場での実測・写真撮影は若杉・矢羽田が行った他、杉野貴幸（文化財保護課調査補助員）ならびに雅企画有限会社の協力を得た。
4．本書に掲載した遺物実測は若杉・矢羽田が行い、製図は若杉の他、中川照美（文化財保護課調査補助員）の協力を得た。
5．空中写真撮影は株式会社九州航空に委託し、その成果品を使用した。
6．遺物写真撮影は長谷川正美氏（雅企画有限会社）に委託し、その成果品を使用した。
7．本書に使用した図面中の方位は、磁北で表示している。
8．写真図版に付している番号は挿図番号に対応する。
9．出土遺物および図面・写真類は日田市埋蔵文化財センターにて保管している。
10．本書の執筆はⅠ・Ⅲは若杉、Ⅱは矢羽田、Ⅳは若杉・矢羽田が行い、編集は若杉が担当した。

## 本文目次


Ⅰ　調査に至る経過と組織 …… 1
Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 2
Ⅲ　調査の記録 …… 4
Ⅳ　まとめ …… 10


## 写真図版目次


写真図版１　調査区空撮
写真図版２　溝・土坑
写真図版３　土坑・埋納遺構・柱穴
写真図版４・５　遺物写真


## 本文写真目次

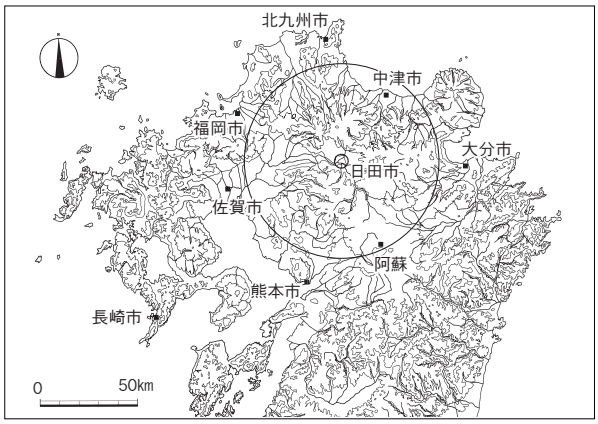

写真１　調査風景 …… 1
写真２　基本土層 …… 4


## 挿図目次


第１図　調査区位置図（1/5000） …… 2
第２図　周辺遺跡分布図（1/ 25000） …… 3
第３図　遺構配置図（1/150） …… 4
第４図　基本土層図（1/30） …… 4
第５図　溝実測図（1/100） …… 5
第６図　溝出土遺物実測図（1/3・1/4） …… 5
第７図　土坑実測図（1/40） …… 6
第８図　土坑出土遺物実測図（1/3・1/4） …… 7
第９図　AP33・34実測図（1/30） …… 8
第10図　AP33・34と他の柱穴出土遺物実測図（1/3） …… 8
第11図　その他の遺物実測図（1/3） …… 9


## 表　目　次


第１表　出土土器計測表 …… 11
第２表　出土土器・石製品観察表 …… 12


日田市の位置図

# Ⅰ　調査に至る経過と組織

平成17年５月12日付けで田中建設株式会社より、日田市大字日高字其田918番地の１外一筆での宅地造成に先立つ事前の照会文書が日田市教育委員会に提出された。開発予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地（上井手遺跡）に該当することから、その取り扱いについて協議が必要である旨の文書回答を行った。この対象地は、旧建設省の官舎跡地で既に更地になっており、宅地部分の掘削を行わないことから、道路位置指定にかかる範囲内にトレンチを設定して、試掘調査を行うことになった。その結果、中世の溝や柱穴が多数確認され、発掘調査が必要であるとの回答を行った。

その後、事業者と協議を行い、試掘調査と同様に道路位置指定部分全体を調査対象とし、平成17年度に発掘調査・整理作業、平成18年度に報告書作成・印刷の２ヵ年に分けて契約を行うことで合意、６月27日に委託契約を取り交わした。発掘調査は６月30日から８月２日まで、整理作業は８月１日から31日まで実施し、平成17年度の業務を終了した。

翌平成18年度は、４月10日に委託契約を取り交わし、４月17日～平成19年３月30日の間に報告書作成・印刷を行った。

調査の経過は以下のとおりである。

６月30日　表土剥ぎ・遺構検出開始

７月１日　表土剥ぎ終了

７月８日　遺構検出終了・遺構掘下げ開始

この間、地下から湧く水の抜き取り作業を平行して行う

７月20日　遺構実測開始

７月28日　遺構掘下げ終了

７月29日　空中写真撮影実施

８月２日　機材を撤収し、調査終了

**写真１　調査風景**

調査終了後の８月５日には日田警察署長宛に埋蔵文化財発見届を提出し、８月24日に埋蔵文化財の認定を受けた。

なお、調査関係者は以下のとおりである（職名は当時のままとしている）。

平成17年度（2005）／発掘調査・整理作業・平成18年度（2006）／報告書作成・印刷

調 査 主 体　日田市教育委員会

調査責任者　諫山康雄（日田市教育委員会教育長）

調 査 統 括　後藤　清（同文化財保護課長）

調 査 事 務　高倉隆人（同文化財保護課課長補佐兼埋蔵文化財係長）、
田中正勝（平成18年度）、伊藤京子（以上、同専門員）、中村邦宏（同主事補）

調 査 担 当　若杉竜太（同文化財保護課主任）、矢羽田幸宏（同主事補、平成18年度・主事）

調　査　員　土居和幸（同文化財保護課副主幹、平成17年度）
今田秀樹、行時桂子、渡邉隆行（試掘担当）（以上、同主任）

発掘作業員　江藤キミ子　河津定雄　五反田静子　後藤美知夫　財津利枝　財津由太　高村三郎
筒井英治　原口勝利　原田強　平川五男　平原知義　森輝雄　行村シズエ

整理作業員　宇野富子　黒木千鶴子

来　訪　者　甲元眞之（熊本大学教授）

## Ⅱ　遺跡の立地と環境

上井手遺跡は、日田盆地の東端を形成している会所山丘陵の麓、日田盆地を東西に流れる三隈川との間の沖積地に存在する。遺跡の西側には三隈川の支流である中野川が南から北へ縦断しており、今回の調査区は中野川右岸の標高約90mの沖積地上に立地している。現在、周辺は住宅が立ち並ぶほか、小学校や公民館等も存在し、この地区の中心的な役割を果たしている。

遺跡は『豊後国風土記』に記される古代日田郡に存在した五つの郷の一つである靫編（ゆぎあみ）郷に属しており、その名は今でも遺跡に隣接する刃連（ゆきい）町に名残を見ることが出来る。靫編郷は古代日田を支配した日下部氏が拠点としており、調査区の北東約350mの独立丘陵上に存在する装飾古墳を有する史跡法恩寺山古墳群は日下部氏との関係が想定されている。また、11世紀には日下部為行により五つの原野が開発されたと『宇佐宮神領大鏡』に記されているが、その一つ竹田別符は今でも大字名としてその名を残し、隣接する本遺跡との関係が想定されている。

周辺の遺跡を概観すると、会所山丘陵の北に連なる大原丘陵上には古墳時代の墳墓群が確認されている赤迫遺跡、市内最大の円墳で、唯一円筒埴輪を有する薬師堂山古墳、未調査であるが丸尾神社古墳・丸尾古墳などの存在が知られている。丘陵の裾野には大波羅遺跡が存在し、１次調査区では「田」・「山」などの古代の墨書土器が出土しており、官人層や寺院などの存在が想定されている。また、大原丘陵と会所山丘陵との間の沖積地には弥生時代の土坑などが確認されている会所宮遺跡が存在する。

遺跡の北東側の丘陵上にある元宮遺跡では、弥生時代後期の甕棺墓、古墳時代後期の石蓋土坑墓や、室町時代建立とみられる笠塔婆も確認されている。さらに元宮遺跡の北側を流れる求来里川流域では近年の発掘調査において、その様相が次第に明らかになっている。小西遺跡では弥生時代中期～後期の集落、対岸の金田遺跡では弥生時代中期～古墳時代中期の集落が確認されている。これらの遺跡よりやや上流に位置する町ノ坪遺跡では、縄文時代後期の包含層や古墳時代中期～後期の集落、中世の水田層、近世の溝などが発見された。さらに求来里平島遺跡では、縄文時代後期の遺物や古墳時代中期～後期の集落、中世の掘立柱建物などが確認された。特に、古墳時代中期には町ノ坪遺跡とともにカマド導入期の住居が確認されており、注目される。

第１図　調査区位置図（1/5000）

また、三隈川の対岸は、古代には石井郷に属し、条里地割も制定されていた。この周囲には縄文時代後期の土坑などが検出された高瀬条里深野田地区、中世の掘立柱建物群が確認されている高瀬条里永平寺地区、複室構造の横穴式石室をもつ市指定史跡惣田塚古墳、縄文時代～古代にかけての住居や中世墓などが確認されている手崎遺跡等が存在する。

その他にも、会所山丘陵上に鳥羽塚古墳・後山古墳・会所山古墳、その裾の沖積地上に鬼塚古墳、西に柳ノ本遺跡、東に平松遺跡・東寺横穴群・日高遺跡などの存在が知られているが、いずれもこれまで調査されておらず、その詳細はわかっていない。

《参考文献》

土居和幸ほか『会所宮遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第11集　日田市教育委員会　1996

渡邉隆行ほか『大波羅遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第29集　日田市教育委員会　2001

行時志郎「高瀬条里永平寺地区」日田市埋蔵文化財調査報告書第34集　日田市教育委員会　2001

行時志郎『高瀬条里深野田地区』日田市埋蔵文化財調査報告書第36集　日田市教育委員会　2002

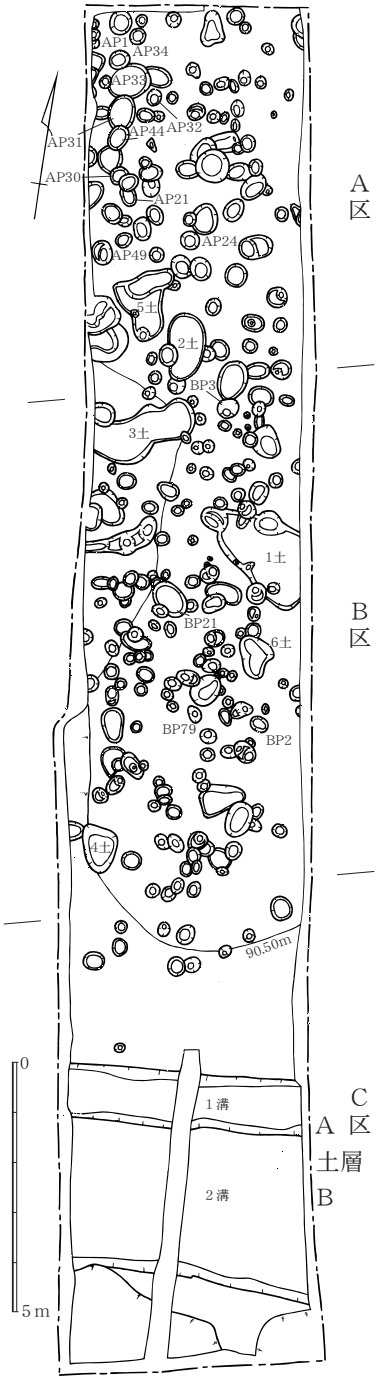
１一丁田遺跡　２瀧ヶ本遺跡　３史跡咸宜園跡　４史跡廣瀬淡窓墓　５日田条里四反畑地区　６日隈古墳・日隈城跡　７大波羅遺跡４次　８大波羅遺跡１次　９大波羅遺跡３次　10大波羅遺跡２次　11日田条里飛矢地区　12日田条里大原地区　13堤城跡　14赤迫遺跡　15薬師堂山古墳　16中尾原遺跡　17森ノ元遺跡　18馬形遺跡　19ガニタ3号墳　20ガニタ２号墳　21ガニタ１号墳　22倉迫遺跡　23丸尾神社古墳　24丸尾古墳　25会所宮遺跡　26後山古墳　27鳥羽塚古墳　28会所山遺跡　29会所宮古墳　30元宮遺跡　31入龍遺跡　32鬼塚古墳　33史跡法恩寺山古墳群　34柳ノ本遺跡　35上井手遺跡　36平松遺跡　37東寺横穴群　38東寺原遺跡　39日高遺跡　40上野遺跡　41上野横穴群　42陣ヶ原遺跡　43姫塚古墳　44銭淵遺跡　45高瀬条里永平寺地区　46高瀬条里深野田地区　47惣田塚古墳　48惣田遺跡　49大宮遺跡　50手崎遺跡　51千人塚1号墳　52大部遺跡　53千人塚2号墳　54小ヶ瀬遺跡　55口が原遺跡　56小西遺跡　57金田遺跡　58町ノ坪遺跡　59求来里平島遺跡

**第２図　周辺遺跡分布図（1/25000）**

# Ⅲ　調査の内容

## ⑴　調査の概要（第３・４図）

調査は、試掘調査の結果から、地表下約1.4mの遺構検出面まで一気に下げることは、作業上危険であることから、まず調査対象地の周囲を幅１～２m広く掘り下げ、そこから調査部分を掘り下げる２段掘りの方法で行った。調査区の土層堆積状況を観察すると、現地表面下約80㎝までは、官舎を取り壊した際の瓦礫や整地に使用した真砂土で埋められていた。その下層は約20㎝の厚さで水田層（１・２層）、その下層には約70㎝の厚さで砂層（３～６層）が堆積し、砂礫層の基盤層がある。遺構検出面は６層の暗黄褐色砂質土にあたり、この面に溝・柱穴・土坑が多く確認された。また、多くのピットが検出され、遺物量も多かったことから、取り上げ時の遺構番号の混乱を避けるため、調査区を北から10m毎にA･B･C区に分割し、それぞれ区毎にピット番号を付した。（例:A区のピットは「AP１」「AP２」とする。）




第３図　遺構配置図（1/150）

## ⑵　遺構と遺物

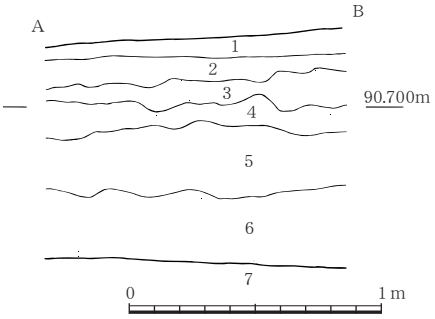
**１・２号溝**（第５図　図版２）

調査区の南端で確認され、１号溝が２号溝を切る。１号溝は幅約1.1m、深さ約20㎝、２号溝は幅約3.5m、深さ約20cmである。断面形は１・２号溝ともに逆台形状を呈する。１号溝は土層の堆積状況から、南北両方向から埋没したことが確認できた。また、１･２号溝ともに底面のレベルから、東から西へ、中野川に向かって傾斜していることが確認できた。

**出土遺物**（第６図　図版４）

遺物はいずれも２号溝から出土した。１・２は土師質土器小皿である。１は底部から口縁にかけて直線的に立ち上がる。内面にヘラ状工具による調整痕が螺旋状に明瞭に残っている。２は底端部から口縁部にかけて、やや外反しながら立ち上がる。内面に煤が付着し、灯明皿と考えられる。３～７は土師質土器坏である。３は外底面に板状圧痕が見られる。４は底端部から口縁部にかけて直線的に立ち上がり、口縁端部でやや外反する。内面に煤が付着する。５は底端部から口縁部にかけて外反しながら立ち上がる。６は底端部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がる。７は底端部から口縁部にかけて、やや内湾気味に立ち上がる。なお、４～７は内底面にヘラ状工具による調整が明瞭に残っている。８は皿である。底端部はやや丸く仕上げられ、直線的に立ち上がる。９は

写真２　基本土層




基本土層
１層　灰色粘質土層　　水田耕作土
２層　橙色粘質土層　　水田盤土
３層　灰茶褐色砂質土層　　焼土・炭少量混入
４層　暗赤褐色砂質土層　　焼土少量混入
５層　灰赤褐色砂質土層　　粒子細かい、焼土少量混入
６層　暗灰茶褐色砂質土層　　部分的に鉄分付着
７層　赤灰色砂礫層　　基盤層

第４図　基本土層図（1/30）

越州窯系青磁碗である。外面には蓮弁文がみられる。10・11は瓦質土器・擂鉢である。ともに外面は回転ナデが施される。内面は回転ナデが施された後、４本単位の摺目が施される。この２点は同一個体の可能性がある。

**１号土坑**（第７図）

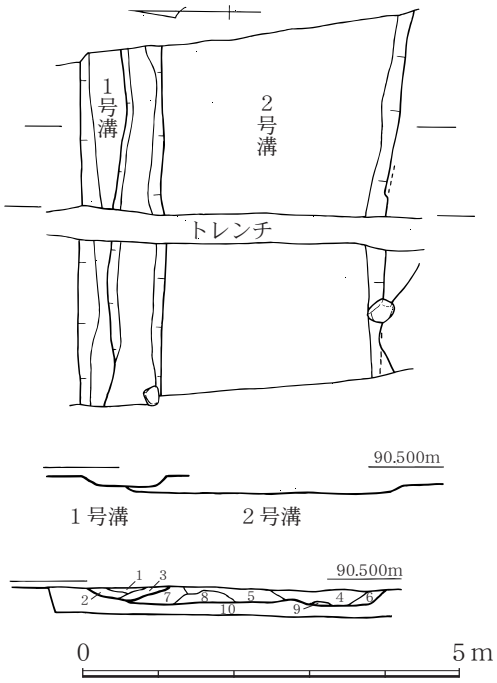
調査区の中央東側で確認された。東側は調査区外へ広がっており、平面形はやや歪な楕円形を呈するとみられる。西側は柱穴と切り合う。規模は長軸約2.6m＋α、短軸約1.3m、深さ約10cmを測る。底面はほぼ平坦である。遺物は土師質土器坏が出土している。

**出土遺物**（第８図　図版４）

１～６は、土師質土器坏である。１は底端部から口縁部にかけて、内湾気味に立ち上がる。２は底端部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がり、口縁端部付近でやや内湾する。また、内底面にはヘラ状工具による調整が施される。３は底端部付から口縁部にかけて、内湾気味に立ち上がる。４は底端部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がる。また、外底面には板状圧痕がみられる、５は底端部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がる。また、外底面には板状圧痕がみられる。６は底端部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がる。また、外底面には板状圧痕がみられ、器面の一部に煤が付着する。

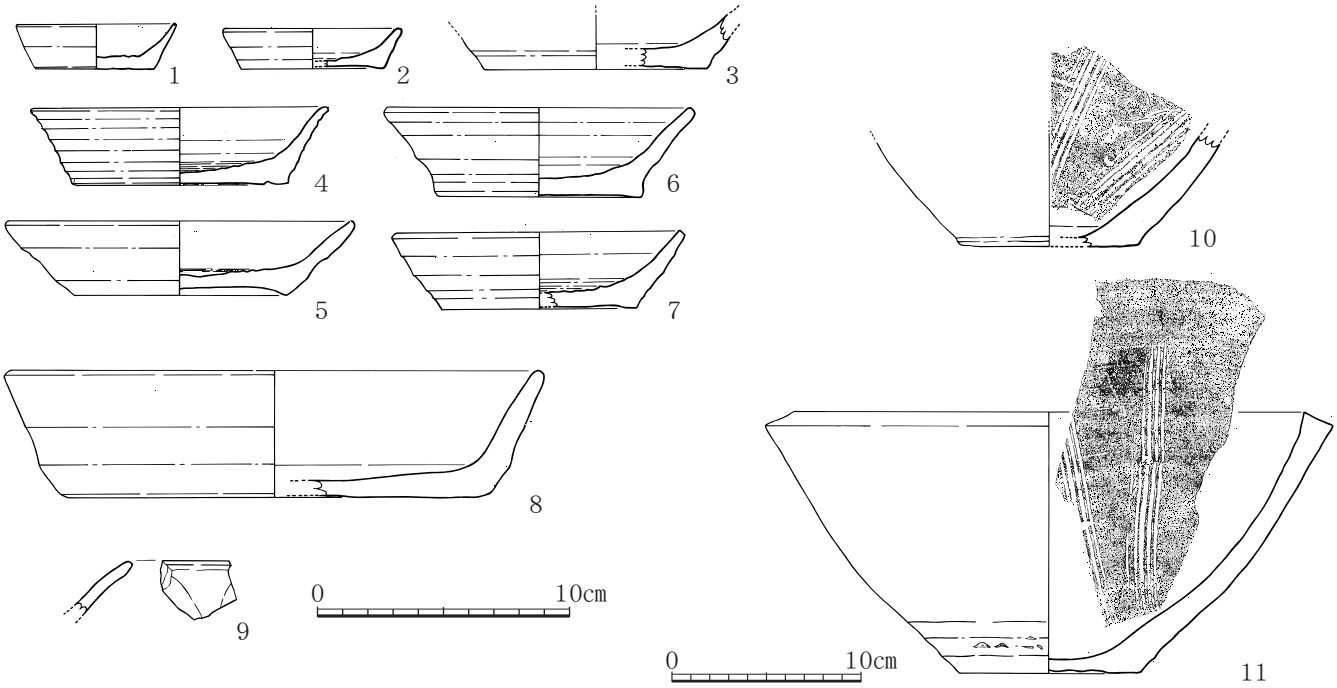
**２号土坑**（第７図　図版２,３）

１号土坑の北西側で確認された。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸約1.3m、短軸約0.8m、深さ約35cmを測る。断面形は長方形を呈し、底面は平坦である。遺物は土師質土器小皿や坏がまとまって出土しており、他の土坑と比べても、その量は圧倒的に多い。

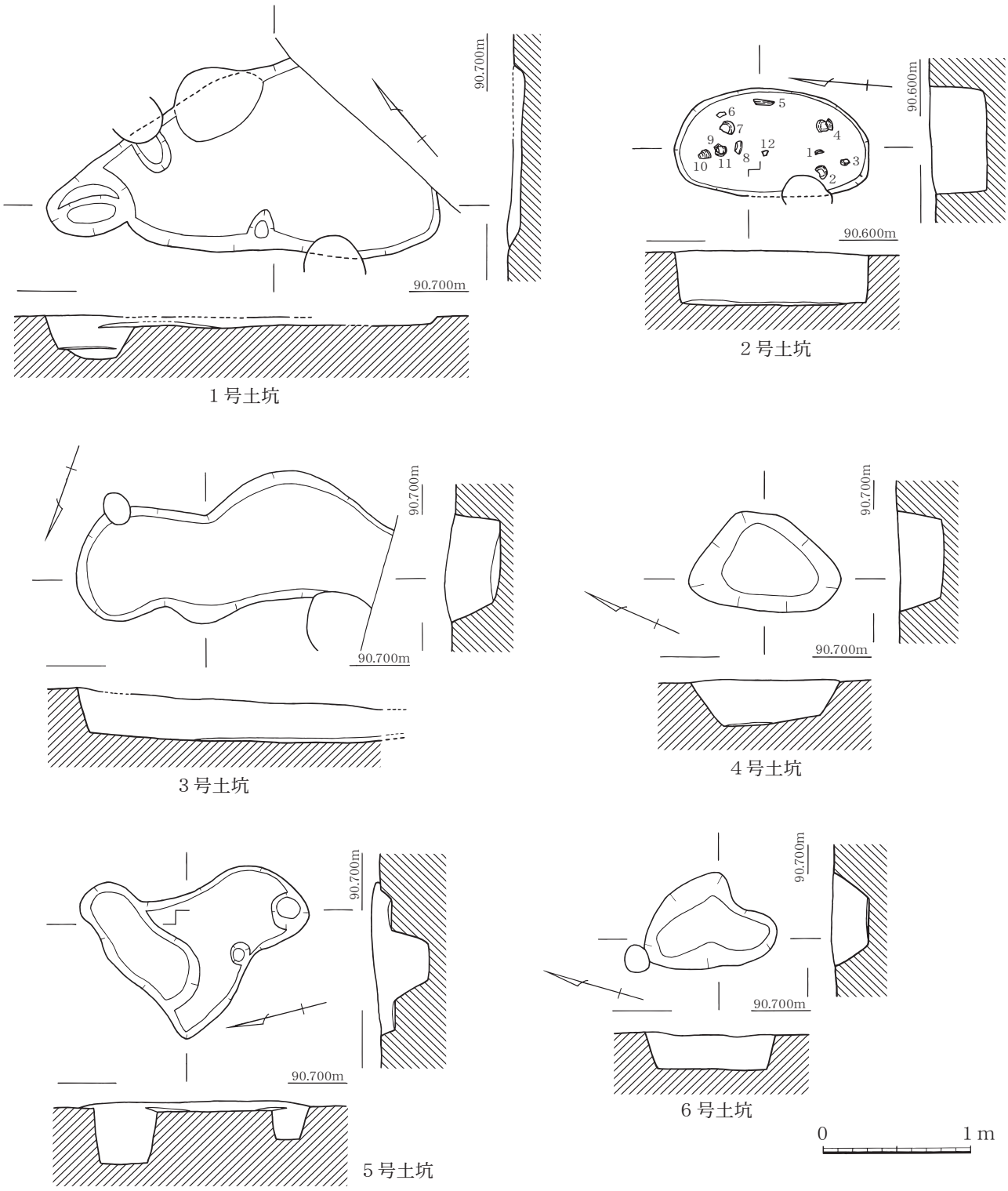



| | | | |
|---|---|---|---|
| 1層 | 暗灰褐色砂質土層 | しまりなく、粒子粗い | 1号溝 |
| 2層 | 灰茶褐色砂質土層 | しまりなく、粒子粗い | 1号溝 |
| 3層 | 灰褐色砂質土層 | １・２層に比べしまり、粒子細かい | 1号溝 |
| 4層 | 赤灰褐色砂質土層 | 粒子粗い、遺物多く含む | 2号溝 |
| 5層 | 明灰褐色砂質土層 | ４層より粒子粗い、遺物多く含む | 2号溝 |
| 6層 | 灰褐色粘砂質土層 | 粒子細かい | 2号溝 |
| 7層 | 淡赤灰褐色砂質土層 | 固くしまり、粒子粗い | 2号溝 |
| 8層 | 淡黒灰褐色砂質土層 | 固くしまる。鉄分少量付着 | 2号溝 |
| 9層 | 暗灰褐色砂質土層 | 粒子粗い | 2号溝 |
| 10層 | 赤灰色砂礫層 | 基盤層 | |

**第５図　１・２号溝実測図（1/100）**



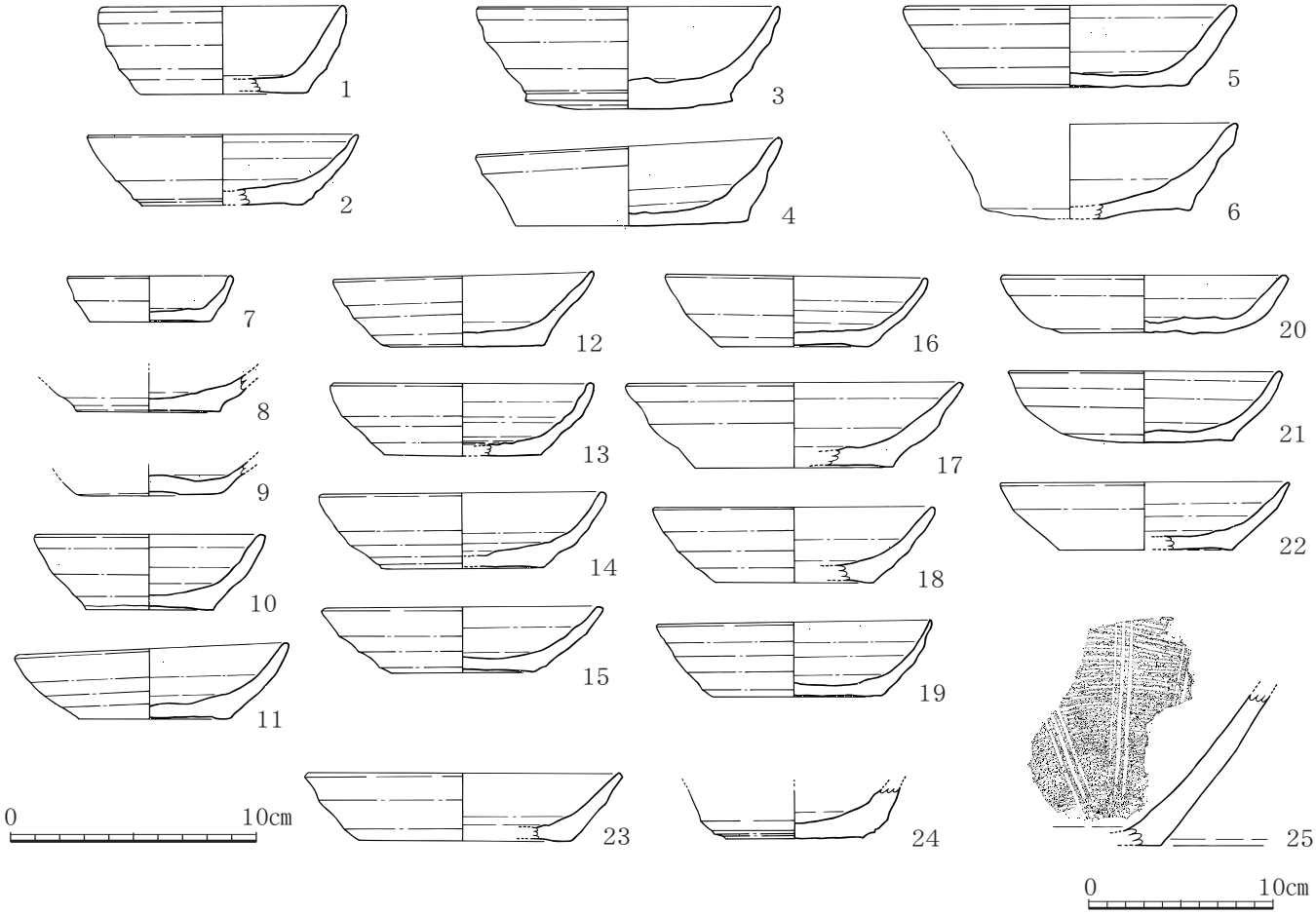

**第６図　２号溝出土遺物実測図（1/3・10・11は1/4）**




**第７図　土坑実測図（1/40）**

**出土遺物**（第８図　図版４）

７は土師質土器小皿である。底端部から口縁部にかけて、内湾気味に立ち上がる。８～22は土師質土器坏である。８は底端部から外反しながら立ち上がる。内底面に工具ナデを施した後、ナデ消し、外底面には板状圧痕がみられる。また､内面にはススが付着している。９は底端部から外反しながら立ち上がる。また、底端部は丸く仕上げられる。外底面には板状圧痕がみられる。10は底端部から口縁部にかけて、内湾しながら立ち上がる。外底面には板状圧痕がみられる。11は底端部から口縁部にかけて、内湾しながら立ち上がる。外底面は糸切り後、ナデが施されている。12は底端部から口縁部にかけて、外反しながら立ち上が




**第８図　土坑出土遺物実測図（1/3・25は1/4）**

るが、端部付近でやや内湾する。また、一部に煤が付着する。13は底端部から口縁部にかけて、内湾しながら立ち上がる。内底面にはヘラ状工具による調整痕がみられる。14は底端部から口縁部にかけて、やや内湾気味に立ち上がる。15は底端部から口縁部にかけて、やや内湾気味に立ち上がる。内底面はヘラ状工具による調整の後、ナデ消されている。16は底端部から口縁部にかけて、内湾しながら立ち上がる。内底面はヘラ状工具による調整の後、ナデ消されている。17は底端部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がる。18は底端部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がる。19は底端部から口縁部にかけて、内湾気味に立ち上がる。口縁端部の器壁は薄く仕上げられる。内底面はヘラ状工具による調整、外底面には板状圧痕がみられる。また、一部に煤が付着する。20は底端部が丸く仕上げられ、口縁部にかけて直線的に立ち上がる。21は底端部から口縁部にかけて、内湾しながら立ち上がる。器面全体に煤が付着する。22は底端部から口縁部にかけて、やや内湾気味に立ち上がる。

**３号土坑**（第７図　図版３）

２号土坑の南側で確認された。西側は調査区外へ広がっている。平面形は不定形で、規模は長軸約2.1m＋α、短軸約0.7m、深さ約30㎝を測る。断面形は逆台形を呈し、底面はほぼ平坦である。遺物は土師質土器坏の小片が出土しているが、図示可能な遺物はなかった。

**４号土坑**（第７図　図版３）

１号溝の北側で確認された。平面形は歪な三角形を呈し、規模は長軸約１m、短軸約0.7m、深さ約30㎝を測る。断面形は逆台形を呈し、底面は緩やかな舟底状を呈する。遺物は土師質土器坏が出土している。

**出土遺物**（第８図　図版４）

23は土師質土器坏で、底端部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がる。内底面はヘラ状工具による螺旋状の調整痕がみられる。

**５号土坑**（第７図）

２号土坑の北西側で確認された。平面形は不定形で、規模は長軸約1.5m、短軸約１mである。底面は北側が２段掘りになっており、南側は柱穴と切り合っている。深さは北側が約10㎝、南側が約45㎝を測る。遺物は土師質土器坏の小片が出土している。

**６号土坑**（第７図　図版３）

１号土坑の南側で確認された。平面形は不定形で、規模は長軸約0.9m、短軸約0.6m、深さ約25㎝を測る。断面形は逆台形を呈し、底面は平坦である。遺物は土師質土器坏や瓦質土器擂鉢が出土している。

**出土遺物**（第８図　図版４）

24は土師質土器坏で、他の土坑で出土した坏と比べ、やや異なる形態を呈する。底端部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。外底面には板状圧痕がみられる。また、口縁部への立ち上がり部分には、ヘラ状工具による調整痕が明瞭に残っている。25は瓦質土器の擂鉢である。内面はハケによる調整の後、３本単位の摺目が施されている。

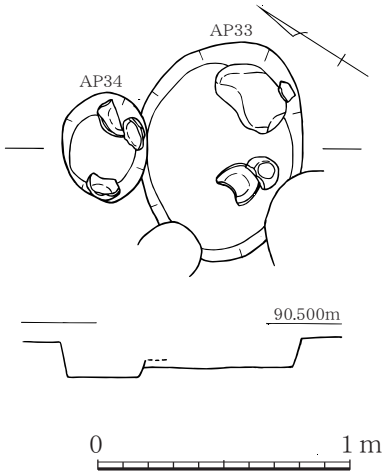
**埋納遺構**（第９図　図版３）

第９図はAP33・34である。柱穴と考えるには、他のものと比べると径が大きい。遺構内からは土器がまとまって出土したことから図示する。図示可能な遺物はそれぞれ、７点・５点あり、何れも床面ではなく、10数㎝浮いた状態で出土している。このような出土状況は竹田市久住町の小路遺跡でも確認されており、土器埋納遺構の可能性が高いと判断した。

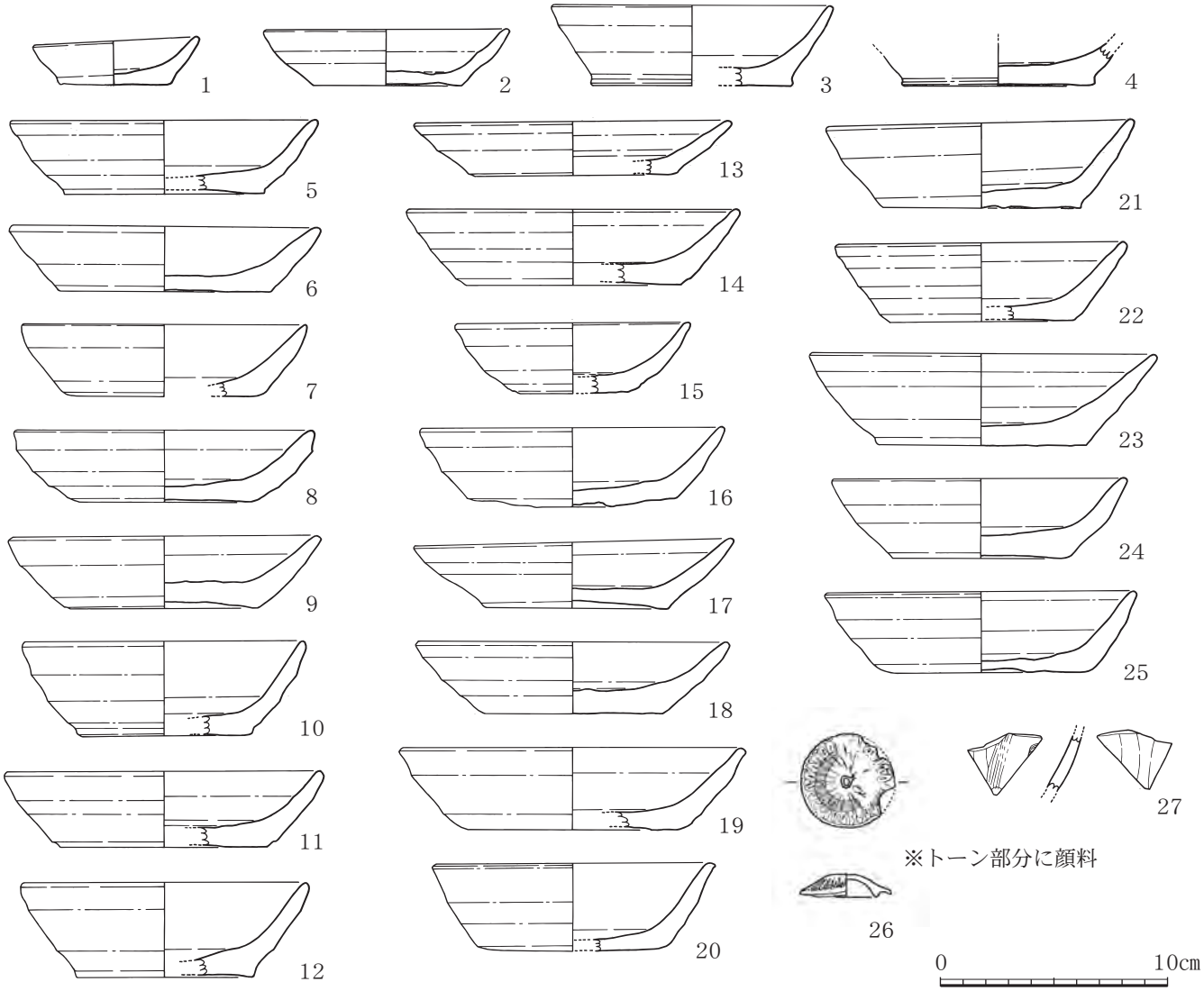
**AP33・34と他の柱穴出土遺物**（第10図　図版４・５）

１はＡＰ44出土の土師質土器小皿である。底端部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がる。外底面は糸切り後、ナデを施す。

２～25は土師質土器坏である。２はＡＰ31出土。底端部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がる。内底面にはヘラ状工具による調整が施される。３はＢＰ13出土。底端部から口縁部にかけて、やや内湾しながら立ち上がる。４はＢＰ21出土。底端部から内湾しながら立ち上がると思われる。５～７はＡＰ１出土。５は底端部から口縁部にかけて、やや内湾しながら立ち上がる。口縁部への立ち上がり部分には、ヘラ状工具による調整痕がみられる。６は底端部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がる。内底面には不整方向ナデが施される。一部に煤が付着する。７は底端部から口縁部にかけて、やや内湾して立ち上がる。外底面には板状圧痕が見られる。８はＡＰ24出土。底端部から口縁部にかけて、内湾気味に立ち上がる。外底面には板状圧痕が見られる。６～８は他の坏に比べ、器壁が厚ぼったい。９はＡＰ32出土。底端部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がる。外底面には板状圧痕が見られ、器面全体に煤が付着する。10はＡＰ30より出土。底端部から口縁部にかけて、内湾して立ち上がる。11・12はＡＰ21出土。11は底端部から口縁部にかけて、内湾して立ち上がる。外底面には板状圧痕が見られる。12は




**第９図　AP33・34実測図（1/30）**

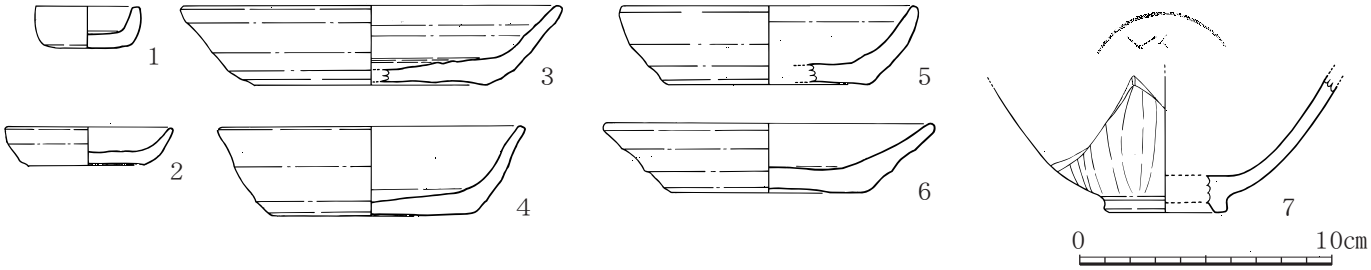



**第10図　AP33・34と他の柱穴出土遺物実測図（1/3）**

底端部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がる。

13～19はＡＰ33出土。13は底端部から口縁部にかけて、大きく傾いて直線的に立ち上がる。14は底端部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がる。外底面には板状圧痕が見られる。15は底端部から口縁部にかけて、内湾しながら立ち上がる。内底面にはヘラ状工具による調整痕が見られる。16は底端部から口縁部にかけて、やや内湾気味に立ち上がる。内底面には指押さえ、外底面には板状圧痕が見られる。他の坏に比べると、径がやや小さい。17は底端部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がる。18は底端部から口縁部にかけて､やや内湾気味に立ち上がる。外底面には板状圧痕が見られる。19は底端部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がる。20はＡＰ49出土。底端部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がる。外底面には板状圧痕が見られる。21～25はＡＰ34出土。21は底端部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がる。口縁部への立ち上がり部分にはヘラ状工具による調整が見られる。22は底端部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がる。外底面には板状圧痕が見られる。23は底端部から口縁部にかけて、大きく開きながら直線的に立ち上がる。内底面はヘラ状工具による調整の後、ナデ消し、外底面には板状圧痕が見られる。24は底端部から口縁部にかけて、やや内湾気味に立ち上がる。内底面には指押さえが見られる。25は底端部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がる。内底面にはヘラ状工具による調整が見られ、外底面は糸切り痕を一部ナデ消している。

26はＢＰ２出土の青白磁小壺の蓋と思われる。上面には花弁状の型押しが施されている。27はＢＰ79出土の同安窯系青磁碗である。色調は乳白色を呈し、外面には点掻文が施される。




**第11図　その他の遺物実測図（1/3）**

**その他の出土遺物**（第11図　図版５）

ここでは、表土剥ぎ・遺構検出中に出土し、遺構に伴わない遺物を説明する。

１は滑石製のミニチュア石鍋である。全面に研磨が施されている。２は土師質土器小皿である。底端部から口縁部かけて、内湾気味に立ち上がる。内底面にはヘラ状工具による調整痕が見られる。大部分に煤が付着し、灯明皿と思われる。

３～６は土師質土器坏である。３は底端部から口縁部かけて、大きく開きながら直線的に立ち上がる。内底面にはヘラ状工具による調整痕が見られる、４は底端部から口縁部にかけて、内湾しながら立ち上がるものの、口縁端部をやや外反させている。口縁部への立ち上がり部分には手持ちによるナデ調整が見られる。５は底端部から口縁部にかけて､内湾しながら立ち上がる。内底面にはヘラ状工具による調整痕が見られる。６は底端部から口縁部にかけて、大きく外反しながら立ち上がる。内底面にはヘラ状工具による調整が見られ、外底面に板状圧痕がみられる。

７は龍泉窯系の青磁碗である。外面には鎬蓮弁文がみられ、見込には花文が施されているとみられる。

## Ⅳ　まとめ

調査区内で確認された遺構は、溝、土坑、埋納遺構のほか多数の柱穴がみられ、数棟の建物が存在することが想定されるが、限られた調査範囲内では確認することはできなかった。

これらの遺構からは多数の土師質土器が出土したが、数点の小皿や皿を除いて、あとは全て坏である。まず、ここではこれらの坏について検討を行っていくが、市内においては良好な類例が少ないことから、太宰府出土の遺物を検討した両山本氏の論考[1]を参考に検討を行う。

今回出土した坏は両山本氏の分類上坏ｂ・ｂ２と呼ばれるものである。ここでは、まず遺構ごとに器高、口径、底径、および平均値の計測を行った。その結果は以下と第１表のとおりである。

それぞれの平均値は溝出土が器高3.2㎝､口径12.4㎝､底径8.8㎝､土坑出土のものが器高3.2㎝､口径11.7㎝､底径7.4㎝、柱穴・埋納遺構出土のものは器高3.4㎝、口径13.8㎝、底径8.4㎝である。

この中で土坑出土のものに関しては口径が小さく、柱穴・埋納遺構出土のものが口径が大きいという大まかな傾向がわかる。また、口径に対する底径の割合は溝出土のものが70％、土坑出土のものが63％、柱穴・埋納遺構出土のものが61％と差がみられる。

しかし、第１表からもわかるようにそれぞれの遺構毎においても法量のばらつきが見られ、さらに器高に関しても殆ど差が見られないことから、ここで明確に遺構毎の特徴を見出すのは難しい。

次に調整をみてみる。まず、特徴的な技法として、内面にヘラ状工具により施した螺旋状の調整痕が挙げられる。さらにこの調整痕をそのまま残すものとナデ消すもの２種が挙げられる。このうち、調整痕をそのまま残すもの割合は56個体中、25％の14個体であり、この調整を施していないか、もしくはナデ消しているものが多く占めていることがわかる。

また、もう１つの特徴として、外底面に見られる板状圧痕が挙げられる。これが残る個体は56個体中約

35％の20個体にみられ、柱穴・埋納遺構のものに多い。

これらの２つの技法を比較してみると、ヘラ状工具による調整痕をそのまま残す坏は、板状圧痕が見られないという大きな傾向を読み取ることができ、溝出土の坏にその特徴を見ることができる。

最後に今回出土した遺物について、その年代を考えてみたい。まず、坏ｂ・ｂ２類については、両山本氏の中世Ⅲ期・14世紀中頃に出現することが指摘されている。、また、底面に板状圧痕を残さない特徴は中世Ⅳ期・14世紀後半から見られる。さらに坏ｂ２類のなかでも、口縁部の器壁が薄くなっているものが数点みられ（第８図19・22)、14世紀後半から15世紀前半にかけてのものとみられる。

擂鉢については、口縁部形態や摺り目が施されている点から14世紀後半から15世紀前半の時期に比定することができる。

このほか、青磁碗は２号溝出土（第６図９）のものが蓮弁文の鎬がみられない特徴から14世紀後半から15世紀前半、一方、一括遺物（第11図７）は蓮弁文に鎬がみられることから、14世紀前半に比定できる。また、BP79より出土した同安窯系青磁碗からは14世紀前半以前の年代が考えられる。

以上のことから、本遺跡の時期については、14世紀前半～15世紀前半と大きな幅の中で考えたい。これは建物の存在が確認できなかったことや遺構毎の遺物の特徴、さらに遺構の切り合いから等から、時期差を明確にすることができなかったことによる。

しかし、少なくともこの時期に建物群が存在していたことは確実であり、さらに本調査区の北約100mに位置する３次調査区では、数棟の建物の存在が確認されている。こうした状況からこの一帯には広範囲にわたって、当該期の屋敷地が存在していたことが十分に想定される。

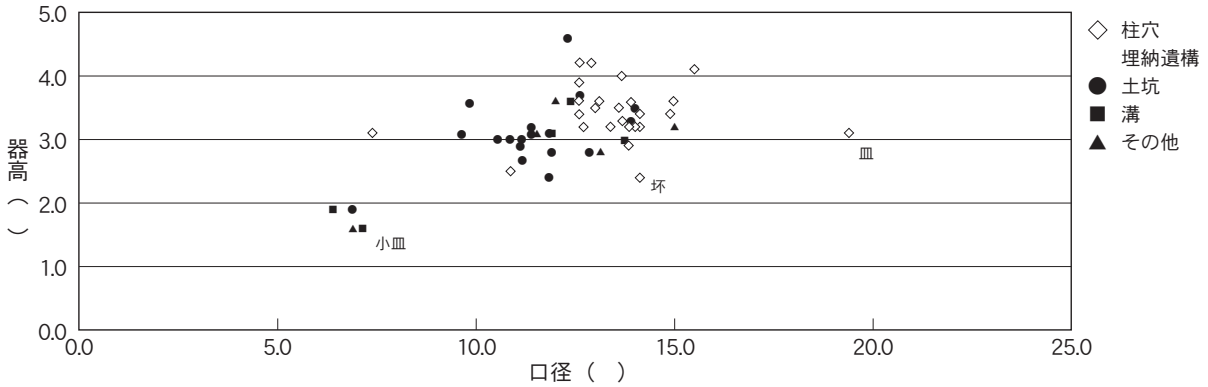
今回の報告では、数量的に豊富な土師質土器坏を中心にみてきたが、遺構の性格の把握や遺物の形態・調整などによる詳細な時期差の検討などを行うことができなかった。今後は新たな調査例や出土遺物の詳細な検討を行うことで、本遺跡を中心とした一帯の状況を把握することを課題としたい。

**註**

(1) 山本信夫・山本信榮「[10] 九州・南西諸島」『中世食文化の基礎的研究』国立歴史民俗博物館研究報告第71集　1997
この中で両氏は坏ｂの形態を「･･･底径の比率は小さく体部は直線的に開き、器高が高い。14世紀以降目立つようになる。･･･」としている。
また、坏ｂ２を「深形で口縁をわずかに内湾させる。」としている。以下、年代観は両氏のものによる。

**参考文献**


森田　勉「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』№.２　1982
上田秀夫「14～16世紀の青磁の分類について」『貿易陶磁研究』№.２　1982
後藤一重編『小路遺跡　上屋敷遺跡』県営担い手育成圃場整備事業都野西部地区に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅱ
大分県久住町教育委員会　2000
渋谷忠章・後藤一重編『伐株山城跡』 大分県玖珠町教育委員会　1984
中世土器研究会編『概説　中世の土器・陶磁器』真陽社　1995


**第１表　出土土器計測表**

# 第２表　出土土器・石製品観察表

※工具ナデは、ヘラ状工具で螺旋状に調整痕がみえるもの

| 挿図番号 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 法量（ ）は復元径・残存高（cm） | | | 調整 | | | | 胎土 | 焼成 | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | 外面 | 内面 | 内底面 | 外底面 | | | 外面 | 内面 | |
| 第６図１ | ２溝 | 土師質土器 | 小皿 | 1.9 | 6.4 | 4.7 | 回転ナデ | 回転ナデ | 工具ナデ | 糸切り | ＡＣＤＥ | 良好 | 淡赤褐色 | 淡赤褐色 | |
| 第６図２ | ２溝 | 土師質土器 | 小皿 | 1.6 | (7.2) | (5.8) | 回転ナデ | 回転ナデ | 工具ナデ | 糸切り | ＡＣＤＥ | 良好 | 褐色 | 褐色 | 内面スス付着、灯明皿 |
| 第６図３ | ２溝 | 土師質土器 | 坏 | (2.1) | － | (8.8) | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り、板状圧痕 | ＡＢＣＤＥ | 良好 | 赤褐色 | 赤褐色 | |
| 第６図４ | ２溝 | 土師質土器 | 坏 | 3.1 | (11.8) | (8.8) | 工具ナデ | 回転ナデ | 工具ナデ | 糸切り | ＡＣＤＥ | 良好 | 淡赤褐色 | 淡赤褐色 | |
| 第６図５ | ２溝 | 土師質土器 | 坏 | 3.6 | (12.4) | (8.2) | 回転ナデ | 回転ナデ | 工具ナデ | 糸切り | ＡＣＤＥ | 良好 | 暗灰褐色 | 暗灰褐色 | 内面スス付着 |
| 第６図６ | ２溝 | 土師質土器 | 坏 | 3.0 | (13.7) | (8.4) | 回転ナデ | 回転ナデ | 工具ナデ | 糸切り | ＡＣＤＥ | 良好 | 淡褐色 | 淡褐色 | |
| 第６図７ | ２溝 | 土師質土器 | 坏 | 3.1 | (11.8) | (9.8) | 回転ナデ | 回転ナデ | 工具ナデ | 糸切り | ＡＢＣＤＦ | 良好 | 赤灰褐色 | 赤灰褐色 | |
| 第６図８ | ２溝 | 土師質土器 | 皿 | 5.1 | (21.2) | (17.4) | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | ナデ | ＡＣＥ | 良好 | 暗茶褐色 | 暗茶褐色 | |
| 第６図９ | ２溝 | 青磁 | 碗 | (2.2) | － | － | 蓮弁文 | － | － | － | 緻密 | 良好 | 濃緑色 | 濃緑色 | 越州窯系 |
| 第６図10 | ２溝 | 瓦質土器 | 擂鉢 | (6.0) | － | (9.6) | 回転ナデ | 回転ナデ・摺り目 | 回転ナデ | ナデ | ＡＣＥＦ | 良好 | 灰褐色 | 灰白色 | №49と同一個体か |
| 第６図11 | ２溝 | 瓦質土器 | 擂鉢 | 13.8 | (30.0) | (9.6) | 回転ナデ | 回転ナデ・摺り目 | 回転ナデ | ナデ | ＡＣＥＦ | 良好 | 灰褐色 | 灰白色 | 回転ナデ後、４本単位の摺目 |
| 第８図１ | １土 | 土師質土器 | 坏 | 3.6 | (9.8) | (6.8) | 回転ナデ | 回転ナデ | ？ | 糸切り | ＡＢＣＤＥ | やや不良 | 淡赤褐色 | 淡赤褐色 | |
| 第８図２ | １土 | 土師質土器 | 坏 | 2.9 | (11.2) | (6.6) | 回転ナデ | 回転ナデ | 工具ナデ、ナデ | 糸切り | ＡＢＤＥ | 良好 | 暗黄褐色 | 暗欧褐色 | |
| 第８図３ | １土 | 土師質土器 | 坏 | 4.6 | (12.4) | 8.6 | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り | ＡＢＤ | 良好 | 淡赤褐色 | 淡赤褐色 | |
| 第８図４ | １土 | 土師質土器 | 坏 | 3.7 | 12.6 | 9.6 | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り、板状圧痕 | ＡＤＥＦ | 良好 | 灰茶褐色 | 淡赤褐色 | |
| 第８図５ | １土 | 土師質土器 | 坏 | 3.3 | (13.9) | (9.1) | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り、板状圧痕 | ＡＢＣＥ | 良好 | 暗褐色 | 暗褐色 | |
| 第８図６ | １土 | 土師質土器 | 坏 | 3.9 | － | 8.6 | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り、板状圧痕 | ＡＣＤＥ | 良好 | 灰褐色 | 暗茶褐色 | スス付着 |
| 第８図７ | ２土 | 土師質土器 | 小皿 | 1.9 | (6.8) | (4.8) | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り | ＡＣＥＦ | 良好 | 暗褐色 | 暗褐色 | |
| 第８図８ | ２土 | 土師質土器 | 坏 | (1.0) | － | (5.9) | 回転ナデ | 回転ナデ | 工具ナデ、ナデ | 糸切り、板状圧痕 | ＢＣＤＥ | 良好 | 淡赤褐色 | 暗褐色 | 内面スス付着 |
| 第８図９ | ２土 | 土師質土器 | 坏 | (1.3) | － | 5.9 | 回転ナデ | 回転ナデ | 回転ナデ | 糸切り、板状圧痕 | ＡＣＤＥ | 良好 | 淡赤褐色 | 淡赤褐色 | |
| 第８図10 | ２土 | 土師質土器 | 坏 | 3.1 | (9.6) | 7.3 | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り、板状圧痕 | ＡＣＤＥ | 良好 | 褐色 | 褐色 | |
| 第８図11 | ２土 | 土師質土器 | 坏 | 3.2 | 11.4 | 6.1 | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り、ナデ | ＡＢＤＥＦ | 良好 | 暗褐色 | 暗褐色 | |
| 第８図12 | ２土 | 土師質土器 | 坏 | 3.1 | 11.8 | 6.3 | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り | ＡＢＣＤＥ | 良好 | 暗褐色 | 暗褐色 | スス付着 |
| 第８図13 | ２土 | 土師質土器 | 坏 | 3.0 | (10.6) | (6.6) | 回転ナデ | 回転ナデ | 工具ナデ | 糸切り | ＡＣＤＥ | 良好 | 赤褐色 | 赤褐色 | |
| 第８図14 | ２土 | 土師質土器 | 坏 | 3.1 | (11.8) | (6.6) | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り | ＡＣＤＥ | 良好 | 褐色 | 褐色 | |
| 第８図15 | ２土 | 土師質土器 | 坏 | 2.7 | (11.2) | 6.0 | 回転ナデ | 回転ナデ | 工具ナデ、ナデ | 糸切り | ＡＣＤＥ | 良好 | 褐色 | 暗褐色 | |
| 第８図16 | ２土 | 土師質土器 | 坏 | 3.0 | 10.8 | 8.1 | 回転ナデ | 回転ナデ | 工具ナデ、ナデ | 糸切り | ＡＢＣＤＥ | 良好 | 褐色 | 褐色 | |
| 第８図17 | ２土 | 土師質土器 | 坏 | 3.5 | (14.0) | (8.2) | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り | ＡＢＣＤＥ | 良好 | 淡赤褐色 | 淡赤褐色 | |
| 第８図18 | ２土 | 土師質土器 | 坏 | 3.1 | (11.4) | (6.6) | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り | ＢＣＥ | 良好 | 淡赤褐色 | 淡赤褐色 | |
| 第８図19 | ２土 | 土師質土器 | 坏 | 3.2 | 11.4 | 6.9 | 回転ナデ | 回転ナデ | 工具ナデ | 糸切り、板状圧痕 | ＡＢＣＤＦ | 良好 | 淡黄褐色 | 暗褐色 | スス付着 |
| 第８図20 | ２土 | 土師質土器 | 坏 | 2.4 | (11.8) | (6.4) | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り | ＡＢＣＤＥ | 良好 | 褐色 | 褐色 | |
| 第８図21 | ２土 | 土師質土器 | 坏 | 3.0 | 11.2 | 7.1 | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り | ＡＣＤＥ | 良好 | 淡黒褐色 | 淡黒褐色 | 器面全体にスス付着 |
| 第８図22 | ２土 | 土師質土器 | 坏 | 2.8 | (11.9) | (9.2) | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り | ＡＢＣＥＦ | 良好 | 赤褐色 | 赤褐色 | |
| 第８図23 | ４土 | 土師質土器 | 坏 | 2.8 | (12.8) | (8.6) | 回転ナデ | 回転ナデ | 工具ナデ | 糸切り | ＡＣＥ | 良好 | 赤褐色 | 赤褐色 | |
| 第８図24 | ６土 | 土師質土器 | 坏 | (2.1) | － | (5.6) | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り、板状圧痕 | ＡＢＣＤＥ | 良好 | 淡赤褐色 | 淡赤褐色 | スス付着 |
| 第８図25 | ６土 | 瓦質土器 | 擂鉢 | 8.2 | － | － | 回転ナデ | 回転ナデ・摺り目 | － | － | ＡＣＥＦ | やや不良 | 灰白色 | 灰白色 | |
| 第10図１ | AP44 | 土師質土器 | 小皿 | 3.1 | (7.4) | (7.9) | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り、ナデ | ＡＣＤＥ | 良好 | 褐色 | 褐色 | |
| 第10図２ | AP31 | 土師質土器 | 坏 | 2.5 | 10.8 | 6.5 | 回転ナデ | 回転ナデ | 工具ナデ、ナデ | 糸切り | ＡＢＣＤＥ | 良好 | 褐色 | 褐色 | |
| 第10図３ | BP13 | 土師質土器 | 坏 | 3.6 | (12.6) | (9.0) | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り | ＡＢＣＤＥＦ | 良好 | 淡赤褐色 | 淡赤褐色 | |
| 第10図４ | BP21 | 土師質土器 | 坏 | (1.4) | | (8.6) | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り | ＡＣＥＦ | 良好 | 淡赤褐色 | 淡赤褐色 | |
| 第10図５ | AP1 | 土師質土器 | 坏 | 3.3 | (13.7) | (8.9) | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り | ＡＢＣＤＥ | 良好 | 暗赤褐色 | 暗赤褐色 | 立ち上がり部分、ヘラ調整 |
| 第10図６ | AP1 | 土師質土器 | 坏 | 2.9 | (13.8) | 9.3 | 回転ナデ | 回転ナデ | 不整方向ナデ | 糸切り | ＡＢＣＥ | 良好 | 褐色 | 暗褐色 | スス付着 |
| 第10図７ | AP1 | 土師質土器 | 坏 | 3.2 | (12.7) | (9.0) | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り、板状圧痕？ | ＡＢＣＥＦ | やや不良 | 淡黄褐色 | 淡黄褐色 | |
| 第10図８ | AP24 | 土師質土器 | 坏 | 3.2 | (13.4) | 7.8 | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り、板状圧痕 | ＡＣＤＥ | 良好 | 褐色 | 灰褐色 | |
| 第10図９ | AP32 | 土師質土器 | 坏 | 3.2 | 14.0 | 8.4 | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り、板状圧痕 | ＡＢＣＥ | 良好 | 暗灰褐色 | 黒灰褐色 | 器面全体にスス付着 |
| 第10図10 | AP30,48 | 土師質土器 | 坏 | 4.2 | (12.6) | 7.8 | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り | ＡＣＤＥ | 良好 | 淡赤褐色 | 淡赤褐色 | |
| 第10図11 | AP21 | 土師質土器 | 坏 | 3.4 | (14.2) | (9.2) | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り、板状圧痕 | ＡＢＣＤＥ | 良好 | 黄白色 | 黄白色 | |
| 第10図12 | AP21 | 土師質土器 | 坏 | 4.2 | (12.8) | (8.0) | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り | ＡＣＤＥ | 良好 | 淡赤褐色 | 淡赤褐色 | |
| 第10図13 | AP33 | 土師質土器 | 坏 | 2.4 | (14.2) | (8.8) | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り | ＡＢＣＤＦ | 良好 | 赤褐色 | 赤褐色 | |
| 第10図14 | AP33 | 土師質土器 | 坏 | 3.4 | (14.8) | (9.6) | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り、板状圧痕 | ＡＣＤＥ | 良好 | 茶褐色 | 茶褐色 | |
| 第10図15 | AP33 | 土師質土器 | 坏 | 3.1 | (19.4) | (4.8) | 回転ナデ | 回転ナデ | 工具ナデ | 糸切り | ＡＢＣＤＥ | 良好 | 淡赤褐色 | 淡赤褐色 | |
| 第10図16 | AP33 | 土師質土器 | 坏 | 3.5 | (13.6) | (9.4) | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ、指押さえ | 糸切り、板状圧痕 | ＡＢＣＤＥＦ | 良好 | 暗赤褐色 | 暗赤褐色 | |
| 第10図17 | AP33 | 土師質土器 | 坏 | 3.2 | 14.2 | 8.2 | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り | ＡＢＣＤＥ | 良好 | 灰褐色 | 灰褐色 | |
| 第10図18 | AP33 | 土師質土器 | 坏 | 3.2 | (13.8) | (8.0) | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り、板状圧痕 | ＡＢＣＤＥ | 良好 | 赤褐色 | 赤褐色 | |
| 第10図19 | AP33 | 土師質土器 | 坏 | 3.6 | (15.0) | (9.4) | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り | ＡＢＣＤＥＦ | 良好 | 淡灰褐色 | 淡灰褐色 | |
| 第10図20 | AP49 | 土師質土器 | 坏 | 3.9 | (12.6) | (8.6) | 回転ナデ | ナデ | ナデ | 糸切り、板状圧痕 | ＡＣＤＥ | 良好 | 淡赤褐色 | 暗褐色 | |
| 第10図21 | AP34 | 土師質土器 | 坏 | 4.0 | 13.7 | 8.8 | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り | ＡＣＤＥ | 良好 | 淡褐色 | 淡褐色 | 立ち上がり部分、ヘラ調整 |
| 第10図22 | AP34 | 土師質土器 | 坏 | 3.5 | (13.0) | (8.5) | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り、板状圧痕 | ＡＣＤＥ | 良好 | 黒褐色 | 暗褐色 | |
| 第10図23 | AP34 | 土師質土器 | 坏 | 4.1 | 15.5 | 9.4 | 回転ナデ | 回転ナデ | 工具ナデ | 糸切り、板状圧痕 | ＡＢＣＤＥ | 良好 | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色 | 内底面、ナデ消し |
| 第10図24 | AP34 | 土師質土器 | 坏 | 3.6 | 13.1 | 7.7 | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ、指押さえ | 糸切り | ＡＢＣＥＦ | 良好 | 赤褐色 | 赤褐色 | |
| 第10図25 | AP34 | 土師質土器 | 坏 | 3.6 | 13.9 | 8.5 | 回転ナデ | 回転ナデ | 工具ナデ、ナデ | 糸切り | ＡＤＥＧ | 良好 | 褐色 | 褐色 | 糸切り痕、一部ナデ消し |
| 第10図26 | BP2 | 白磁 | 蓋 | 1.0 | 4.2 | － | 花弁状スタンプ | － | － | － | 緻密 | 良好 | 灰白色 | 灰白色 | |
| 第10図27 | BP79 | 青磁 | 碗 | (2.5) | － | － | － | 点掻文 | － | － | 緻密 | 良好 | 乳白色 | 乳白色 | 同安窯系 |
| 第11図１ | 一括 | ミニチュア石鍋 | | 1.7 | (4.2) | (2.4) | － | － | － | － | － | 良好 | － | － | 全面研磨 |
| 第11図２ | 一括 | 土師質土器 | 小皿 | 1.6 | 6.8 | 4.5 | 回転ナデ | 回転ナデ | 工具ナデ | 糸切り | ＡＢＣＤＥ | 良好 | 暗褐色 | 暗褐色 | スス付着、灯明皿 |
| 第11図３ | Ｃ(一括) | 土師質土器 | 坏 | 3.2 | (15.0) | (9.4) | 回転ナデ | 回転ナデ | 工具ナデ、ナデ | 糸切り | ＡＣＥＦ | 良好 | 赤褐色 | 赤褐色 | 内面スス付着 |
| 第11図４ | 一括 | 土師質土器 | 坏 | 3.6 | (12.0) | (7.8) | 回転ナデ | 回転ナデ | ナデ | 糸切り | ＡＢＣＤＥ | 良好 | 淡赤褐色 | 暗灰褐色 | 立ち上がり部分、手持ちナデ |
| 第11図５ | Ａ(一括) | 土師質土器 | 坏 | 3.1 | (11.6) | (9.0) | 回転ナデ | 回転ナデ | 工具ナデ | 糸切り | ＡＣＤＥ | 良好 | 暗茶褐色 | 暗褐色 | |
| 第11図６ | Ａ | 土師質土器 | 坏 | 2.8 | (13.2) | (7.8) | 回転ナデ | 回転ナデ | 工具ナデ | 糸切り、板状圧痕 | ＡＢＣＤ | 良好 | 淡褐色 | 淡褐色 | 内底面、ナデ消し |
| 第11図７ | 一括 | 青磁 | 碗 | (5.5) | | (5.0) | 鎬連弁文 | － | 花文 | － | 緻密 | | 乳白色 | 乳白色 | 龍泉窯系、高台底面露胎 |

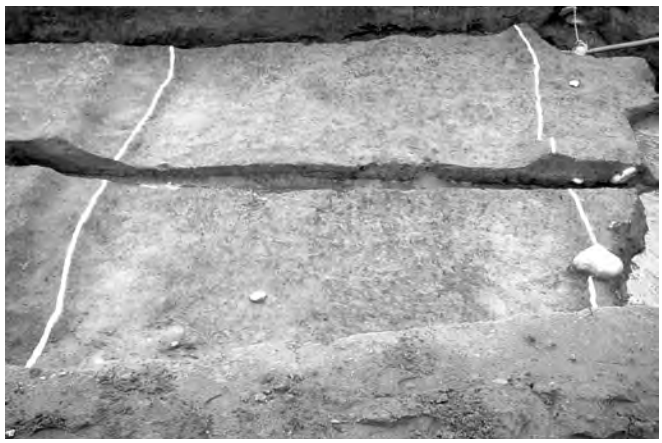
胎土　Ａ：角閃石　Ｂ：石英　Ｃ：長石　Ｄ：赤色粒子　Ｅ：白色粒子　Ｆ：黒色粒子　Ｇ：雲母　Ｈ：砂粒

調査区遠景（北西から）

調査区全景（真上から）

写真図版２

１・２号溝（西から）



２号溝（西から）

２号溝遺物出土状況

２号溝遺物出土状況

２号溝遺物出土状況

２号溝遺物出土状況

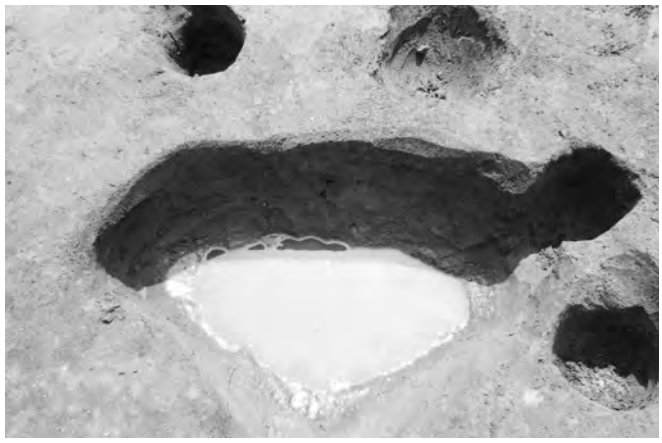
２号土坑遺物出土状況

２号土坑遺物出土状況

2 号土坑遺物出土状況

3 号土坑（西から）

4 号土坑（西から）

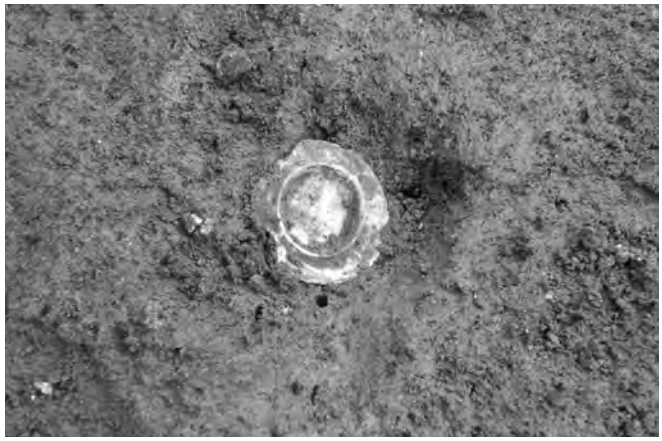


6 号土坑（東から）

AP33遺物出土状況

AP34遺物出土状況

AP30遺物出土状況



BP 2 遺物出土状況

写真図版 4

6-1（内底面）

6-5

6-6

6-1

6-8

6-9

6-11

8-4

8-7

8-10

8-11

8-12

8-16

8-19

8-21

8-25

8-19（外底面）

8-26

10-1

10-2

10-5

10-6

10-8

10-9

10-10

10-16

10-17

10-18

10-19

10-20

10-21

10-23

10-24

10-25

内面　外面

10-27

11-1

11-2

11-7

# 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| ふりがな | かみいでいせき |
| 書名 | 上井手遺跡 |
| 副書名 | |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 日田市埋蔵文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第76集 |
| 編著者名 | 若杉竜太・矢羽田幸宏 |
| 編集機関 | 日田市教育委員会文化財保護課 |
| 所在地 | 〒877-0077　日田市南友田町516-1 |
| 発行機関 | 日田市教育委員会 |
| 所在地 | 〒877-8601　日田市田島2-6-1 |
| 発行年月日 | 2007年3月30日 |

| 所収遺跡名 | 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 上井手遺跡 | 大分県日田市<br>大字日高字其田<br>918-1ほか | 44204-6 | 651164 | 33°18′26″ | 130°56′53″ | 20050630<br>～<br>20050802 | 131㎡ | 宅地造成 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 上井手遺跡 | 集落 | 中世 | 溝・土坑・ピット・柱穴 | 土師質土器<br>瓦質土器擂鉢<br>白磁・青磁 | |


## 上井手遺跡

日田市埋蔵文化財調査報告書第76集
2007年3月30日

編集　日田市教育委員会文化財保護課
〒877-0077　大分県日田市南友田町516-1
発行　日田市教育委員会
〒877-8601　大分県日田市田島2-6-1
印刷　日田印刷有限会社
〒877-0076　大分県日田市庄手亀川820-1